

日本画の伝統と革新 併陳：新収蔵作品展

Nihonga: Tradition and Innovation /
New Acquisitions of 2012



戦後の日本画家たちの精神性の高い画業を、
所蔵品から厳選した名品16点で展観します。

1. 中島千波 《眠 * '88-8》1988年 紙本着彩 神奈川県立近代美術館蔵

2013年4月6日[土]—5月26日[日]
神奈川県立近代美術館 鎌倉別館

〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-8-1 tel.0467-22-7718



主催：神奈川県立近代美術館

休館日：月曜日（ただし4月29日、5月6日は開館）

開館時間：午前9時30分—午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料：一般250(150)円、20歳未満・学生150(100)円、65歳以上と高校生100円

※()内は20名以上の団体料金です。

※中学生以下、障害者手帳をお持ちの方は無料です。

その他の割引につきましてはお問い合わせください。

※ファミリー・コミュニケーションの日：毎月第一日曜日（今回は4月7日と5月5日）は、
18歳未満のお子様連れのご家族は、優待料金（65歳以上の方を除く）でご観覧
いただけます。

■無料開館日「国際博物館の日」

5月18日(土)は、神奈川県立近代美術館で開催中の3つの展覧会を無料でご覧いただけます。

■問い合わせ先 神奈川県立近代美術館 鎌倉

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-1-53

tel. 0467-22-5000 / fax. 0467-23-2464

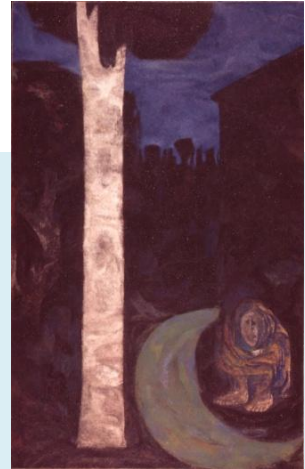
広報担当：松尾、酒井 展覧会担当：橋、李



2.



3.



4.

戦後の日本画は、伝統と革新のせめぎ合いによってその歴史を刻み続けてきました。伝統を踏まえることなくして、革新的な芸術も脆弱なものとなりましょう。戦後活躍した日本画家たちの精神性の高い画業は、伝統的な日本画技法に裏打ちされてきました。山口蓬春のように戦前から充実した作品を制作し、その名を知られた画家もいますし、戦後、彗星のごとくに現れた新人画家もいます。その証左として本展では、山口蓬春の《宴》のような最盛期の作品をはじめ、高山辰雄や加山又造らの清冽な雰囲気漂わせた作品から、大胆な画風で人々の目を驚かさず荘司福の《忿怒》、さらには中島千波の壮年時代の野心的な作品《眠* '88-8》など、伝統と革新を併せ持った日本画の名品16点を所蔵品から厳選して展示します。

■担当学芸員によるギャラリートーク

2013年4月13日[土]、5月25日[土]

各日午後2時より

申込不要、無料

(ただし、展覧会の観覧券が必要です)

■画像キャプション

2. 加山又造《凍る日輪》1964年 紙本着彩 神奈川県立近代美術館蔵
3. 中村正義《ピエロ》1973年 紙本着彩 神奈川県立近代美術館蔵
4. 高山辰雄《夜》1963年 紙本着彩 神奈川県立近代美術館蔵
5. 村山知義《少女エルズベットの像》1922年 油彩、カンヴァス 神奈川県立近代美術館蔵

併陳：新収蔵作品展 New Acquisitions of 2012

併陳として、2012年度に新たに収蔵された作品も約35点紹介します。北川原コレクションからは、アントワーヌ・ブールデルの彫刻《捧げる女》や香月泰男の油彩《運ぶ人》を展示。さらに、荻須高德の風景画や小磯良平の婦人像などが出品されます。恩地孝四郎の油彩による裸婦像や幸徳幸衛の風景画も珍しい作品として関心を引くことでしょう。



5.